

名称 エンゴサク

他名等 エゾエンゴサク

部位等 塊茎 備考

学名(科名) ① *Corydalis turtschninovii* Besser forma *yanhusuo* Y. H. Chou et C. C. Hsu [局方, 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 139], ② *C. ambigua* Cham. Et Schlecht. [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 135] (Papaveraceae) ケシ科

生薬名、基原植物和名等 ①エンゴサク [新訂牧野和漢薬草大図鑑]、②エゾエンゴサク [新訂牧野和漢薬草大図鑑] 生薬名：延胡索 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) 急性毒性データ-RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

l-corydaline, protopine, bullbocapnine, *d*-tetrahydropalmatine, *l*-canadine, coptisine, dehydrocorydaline, *l*-tetrahydrocolumbamine, α -allocryptopine, *l*-tetrahydrocoptisine [Kiryakov, H. G. et al.: *Planta Med.* 50, 136 (1984), Liu, C. et al.: *Zhongguo Yaoke Daxue Xuebao* 20, 261 (1989), Verzar, P. G. et al.: *Bot. Koze.* 71, 205 (1984)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

エキス及び含有アルカロイド類のマウス摘出小腸及び子宮に対する鎮けい作用 [北畠芳子ら：薬誌 84, 73 (1964)]、第四級塩基分画及び dehydrocorydaline の胃液分泌抑制作用及び抗潰瘍作用 [荘司行伸ら：日薬理誌 65, 196 (1969)]、水製エキスの効凝血作用 [小菅卓夫ら：薬誌 104, 1050 (1984)]、メタノールエキス抗血管内凝固作用 [Matsuda, H., et al.: *Planta Med.* 54, 27 (1988)] 及びドパミン2受容体への spiperrone の結合阻害活性 [隅田利彦ら：薬誌 108, 450 (1988)] が報告されている。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook (*C. yanhusuo*) 2b: not to be used during pregnancy. Emmenagogue, Uterine Stimulant
指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

アルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 エンジュ

他名等 カイカ、カイカク

部位等 花・花蕾・果実 備考 葉・サヤは「非医」

学名(科名) *Sophora japonica* L. (Leguminosae) マメ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 エンジュ [局外生規] 生薬名：槐花 [局外生規]、槐角 [和漢薬百科図鑑 I p 318] 槐花はエンジュの花蕾を乾燥したものであり、槐角はエンジュの果実を乾燥したものである。

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

毒性データー (LD50 等) rutin: LD50 2g/kg (rat ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

rutin [和漢薬百科図鑑I p 318], quercetin, maackiain [H. D. VanEtten, P. S. Matthews, E. H. Mercer : *Phytochemistry*, 22, 2291-2295 (1983)], maackiain glucoside, kaikasaponin I-III, sophorol, sophoricoside, sophorabioside,

主要な生理活性

ルチンは摘出カエル心臓に対して機能促進的に働き、ウサギ耳殻血管を収縮させるが、ウサギ頸動脈血圧には著しい変化を認めない。ウサギ摘出腸管に対して緊張の低下、運動振幅の縮小を示す [日本薬草全書 p 94]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に記載される重要生薬であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 オウカシ

他名等

部位等 根・葉 備考

学名(科名) ①*Sida cordifolia* L., ②*S. mysorensis* Wight et Arn. (Malvaceae) アオイ科 [中薬大辞典 p 115]

生薬名、基原植物和名等 生薬名：黄花仔 [中薬大辞典 p 115]

医薬品として使用実態があるか No (ただし中国では民間薬としての使用実態はある)

毒性データー (LD50 等) Extract: LD50 3g/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

ephedrine, pseudoephedrine, N-methyltryptophan methyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone [中薬大辞典 p 115, S. Ghosal, R. Ballav P. S. Chauhan R. Mehta: *Phytochemistry*, 14, 830-832 (1975)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか Yes

対象化合物等 ephedrine (覚醒剤原料)

主要な二次代謝産物等

ephedrine, pseudoephedrine, N-methyltryptophan methyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone

主要な生理活性

水製エキスはマウスにおいて抗炎症作用、鎮痛作用を示した。また、マウスにおける急性毒性試験では3 g/kg 経口投与においてLD50値を求められなかった。さらに水製エキスはラットにおいて肝保護作用を示すとともに、その活性化合物は本植物より初めて単離されたフマル酸と同定された [E. M. Franzotti, C. V. F. Santos, H. M. S. L. Rodrigues, R. H. V. Mourao, M. R. Andrade and A. R. Antonioli : *Journal of Ethnopharmacology*, 72, 273-277 (2000)]。

重要文献

1) S. Ghosal, R. Ballav P. S. Chauhan R. Mehta: *Phytochemistry*, 14, 830-832 (1975)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 オウカボ

他名等 キンゴジカ

部位等 全草 備考

学名(科名) *Sida rhombifolia* L. (Malvaceae) アオイ科 [中薬大辞典 p 118]

生薬名、基原植物和名等 キンゴジカ [園芸植物大事典 2 p 524] 生薬名：黄花母 [中薬大辞典 p 118]

医薬品として使用実態があるか No (ただし中国では民間薬としての使用実態はある)

毒性データ (LD50 等) Extract: LD50 >1g/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

ephedrine, pseudoephedrine, N-methyltryptophan methyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone [A.Prakash, R. K. Varma, S. Ghosal : *Planta Med.*, 43, 384-388 (1981)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか Yes

対象化合物等 ephedrine (覚醒剤原料)

主要な二次代謝産物等

ephedrine, pseudoephedrine, N-methyltryptophan methyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone

主要な生理活性

70%エタノールエキスはラットにおいて抗炎症作用を示した [C. A. Dunstan, Y. Noreen, G. Serrano, P. A. Cox, P. Perera, L. Bohlin: *Journal of Ethnopharmacology*, 57, 35-56 (1997)]. またメタノールエキスはヒト細胞系に対して抗腫瘍活性を示した [D. N. Muanza, K. L. Euler, L. Williams, D. J. Newman: *Int. J. Pharmacogn.*, 33, 98-106 (1995)].

重要文献

1) A.Prakash, R. K. Varma, S. Ghosal : *Planta Med.*, 43, 384-388 (1981)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 オウギ

他名等 キバナオウギ、ナイモウオウギ

部位等 根 備考 茎・葉は「非医」

学名(科名) ①*Astragalus membranaceus* Bunge, ②*A. mongholicus* Bunge (Leguminosae) マメ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ①キバナオウギ [局方]、②ナイモウオウギ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 199]

生薬名：黄耆 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：黄耆建中湯、加味帰脾湯、帰脾湯、七物降下湯、十全大補湯、防己黄耆湯等 (17 処方)

毒性データ (LD50 等) 580 mg/kg mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes?

含む場合その化合物は γ -aminobutyric acid (韓国産オウギ) [Hikino, H. *et al.*: *Planta Med.* 30, 297 (1976)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

2', 4'-dihydroxy-5,6-dimethoxyisoflavone, cycloaraloside C, cycloaraloside F, β -sitosterol-D-glucopyranoside, astragaloside I-VII, isoastragaloside I-II

主要な生理活性

水浸液、70%エタノールエキス、エタノールエキスをウサギ、イヌ、ネコなどに静脈内投与するとき血圧降下作用が認められるが [寺田文次郎ら：日薬物誌 18, 40 (1934), 25, 27 (1938), 藤田正躬：四国医学雑誌 14, 513 (1959), 高橋富雄、須田正房：日薬理誌 55, 51 (1959)]、ウレタン麻酔ラットによる降圧作用試験でその本体は γ -aminobutyric acid であることが判明した [Hikino, H., Funayama, S. and Endo, K.: *Planta Med.* 30, 297 (1976); Cao, Z., YU, J., Gan, L. and Chen, Y.: *Huaxue Xuebao* (化学学报) 43, 581 (1985)]。また煎剤をラット(皮下)、イヌ(静脈)、健康人(経口)に投与すると利尿作用も現れる [黄厚冠ら：薬学学报 12, 319 (1965)]。なお、水製エキスにはマクロファージの貪食作用増強効果 [Lau, B. H. S., Ong, P. and Tosk, J.: *Phytother. Res.* 3, 148 (1989)]、多糖類には腹腔マクロファージ産生促進作用 [Wang, J., Ito, H. and Shimura, K.: *Japan J. Pharmacol.* 51, 432 (1989)]、サポニン成分には血圧下降、抗炎症、血漿中サイクリックAMP濃度上昇作用 [張銀弟ら：薬学学报 19, 333, 619 (1984)] が報告されている。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 1.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

名称 オウゴン

他名等 コガネバナ、コガネヤナギ

部位等 根 備考 茎・葉は「非医」

学名(科名) *Scutellaria baicalensis* Geogi (Labiatae) シソ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 コガネバナ [局方]、コガネヤナギ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 461] 生薬名：黄芩 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：黄芩湯、黄連解毒湯、加味解毒湯、柴朴湯、三黄瀉心湯、小柴胡湯、大柴胡湯等 (38 処方)

毒性データ (LD50 等) 急性毒性 RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

wogonin, baicalin

主要な生理活性

メタノールエキスはラット十二指腸内投与で胆汁酸非依存性の胆汁分泌促進作用を示し [三浦雅美ら：薬誌 107, 992 (1987)]、エタノールエキスをヒト及びイヌに経口投与した場合は緩下作用が認められ [熊崎平蔵：岐阜医紀 6, 372 (1958)]、一方、水浸液の連続経口投与はウサギの粥状動脈硬化防止作用を示す [青沼繁ら：薬誌 77, 1303 (1957)]。水製及びエタノールエキスの抗アレルギー作用として、実験的喘息 [江田昭秀ら：アレルギー 21, 346 (1972)]、受身皮膚アナフィラキシーに対する抑制効果、さらに70%メタノールエキスに抗炎症作用 [Kubo, M., et al.: *Chem. Pharm. Bull.* 32, 2724 (1984)]、水製エキスに腎炎発症抑制作用が認められる [永井博式、江田昭秀：和漢医薬誌 2, 204 (1985)]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 1. *S. lanteriflora* class 1: Reports toxicity are likely due to adulteration of skullcap with germander (*Teucrium spp.*), which has been reported to cause hepatotoxicity.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

名称 オウバク

他名等 キハダ

部位等 樹皮 備考 葉・実は「非医」

学名(科名) ①*Phellodendron amurense* Ruprecht, ②*P. chinense* Schneider (Rutaceae) ミカン科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ①キハダ [局方]、②シナキハダ [和漢薬百科図鑑 II p 148] 生薬名：黄柏 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：黄連解毒湯、加味解毒湯、柴胡清肝湯、七物降下湯、蒸眼一方等 (14 処方)

毒性データ (LD50 等) Cortex water extract: TDL0 3,360mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

berberine, palmatine, magnoflorine, phellodendrine, jateorrhizine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

berberine, palmatine, magnoflorine, phellodendrine, jateorrhizine, obakunone, limonin (obakulactone), butenolide

主要な生理活性

水煎又は煎出エキスは胃瘻を作ったイヌの空腹時に直接胃内に投与しても胃液分泌には何ら影響がないことが認められたが [佐藤一二：京都府立医大誌 16, 443 (1936)]、マウス経口投与で塩化ピクリルによる接触性皮膚炎を抑制し [間瀬明人ら：和漢医薬誌 2, 634 (1985)]、長期間経口投与したラットでは実験的高血圧の発症を抑制した [Asakawa, K., Otsuka, Y. and Cyong, J.：生薬 39, 162 (1985)]。50%メタノールエキス又はメタノール不溶画分は抗炎症作用 [藤村一、沢田徳之助、後藤実：薬誌 90, 782 (1970), 内山努、上川浩、萩田善一：和漢医薬誌 6, 158 (1989)]、熱水製エキス又はメタノール不溶画分は抗胃潰瘍作用を示す [Takase, H., et al.: *Japan, J. Pharmacol.* 49, 301 (1989), 内山努、上川浩、萩田善一：薬誌 109, 672 (1989)]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 2b: not to be used during pregnancy. One case of a rash associated with ingestion of *huang bai* has been recorded.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 オウヒ

他名等 ヤマザクラ

部位等 樹皮 備考

学名(科名) ①*Prunus jamasakura* Siebold, ②*P. verecunda* Koehne (Rosaceae) バラ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 ①ヤマザクラ、②カスミザクラ [局外生規] 生薬名：桜皮 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

漢方において排膿薬として用いられる。

配合処方：十味敗毒湯（1処方）

毒性データ（LD50等）同属植物 *P. emarginata*, wood extract: TDL0 14g/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

dehydrobuddlenol, lyonieresinol, sakuraresinol [K. Ysoshinari, N. Shimazaki, Y. Mimaki and Y. Sashida: *Phytochemistry*, 29, 1675-1678 (1990), N. Shimazaki, Y. Mimaki and Y. Sashida: *Phytochemistry*, 30, 1475-1480 (1990)]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

名称 オウレン

他名等 キクバオウレン

部位等 根茎・ひげ根 備考 葉は「非医」

学名(科名) ①*Coptis japonica* Makino, ②*C. chinensis* Franchet, ③*C. deltoidea* C. Y. Cheng et Hsiao, ④*C. teeta* Wallich (Ranunculaceae) キンポウゲ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ①オウレン [局方]、キクバオウレン [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 96]

生薬名：黄連 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：黄連解毒湯、加味解毒湯、柴胡清肝湯、温胆湯、蒸眼一方、清上防風湯、女神散等 (20 処方)

毒性データ (LD50 等) *C. japonica*, root extract: LD50 866mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

berberine, palmatine, jateorrhizine, coptisine, worenine, magnoflorine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

berberine, palmatine, jateorrhizine, coptisine, worenine, magnoflorine, ferulic acid

主要な生理活性

水製エキスには抗胃潰瘍作用 [Takase, H., et al.: *Japan, J. Pharmacol.* 49, 301 (1989)]、肝障害改善作用 [Yang, L. L., et al.: *和漢医薬誌* 7, 28 (1990)]、メタノールエキスには抗炎症作用 [大塚絃司ら: *薬誌* 101, 883 (1991)] が認められる。また動脈硬化予防効果を示唆する報告 [青沼繁、三村務、樽谷正朗: *薬誌* 77, 1303 (1957)] もある。一方、50%エタノールエキスは黄色ブドウ球菌、赤痢菌、コレラ菌などに対して抗菌性を示す [Chang, N. C.: *Proc. Soc. Exptl. Biol. Med.* 69, 141 (1948)]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook *C. chinensis*, *C. groenlandica* 2b : not to be used during pregnancy.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 オシダ

他名等 英名 Male Fern [Com E p 346]

部位等 根茎・葉基 備考

学名(科名) ①*Dryopteris crassirhizoma* Nakai [新訂和漢薬 p 684, 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 690], ②*D. filix-mas* (L.) Schott [新訂和漢薬 p 684, Com E, 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 690] (Aspidiaceae) オシダ科
生薬名、基原植物和名等 ①オシダ [新訂和漢薬, 新訂牧野和漢薬草大図鑑]、②メンマ [新訂和漢薬]
生薬名：綿馬 [新訂和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

オシダの根茎は駆虫作用を有すると共に、強い細胞毒性を有する。オシダの根茎を含む製剤を治療量経口摂取した場合、重篤なものを含む多くの中毒症状が報告されている。中毒症状には失明、頭痛、目まい、吐き気、錯乱、下痢、重篤な腹部のけいれん、呼吸困難、呼吸器及び心不全、不整脈、振戦、けいれん、子宮筋刺激、尿蛋白、ビリルビン尿症等がある。副作用は脂質や油脂、アルコール等の同時服用により増強する推測されている。オシダは内服には使用されていない[Com E]。

毒性データ (LD50 等) 190.5 mg/kg ip, 853.7 mg/kg po.

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

dryocrassin [Y. Noro, K. Okuda, H. Shimada, S. Hisada, I. Inagaki, T. Tanaka, H. Yokohashi : *Phytochemistry*, 12, 1491-1493 (1973)], 9(11)-fernene, 9(11)-fernene-12-one, 22-hopanol, aspidin

主要な生理活性

根茎のメタノールエキスは抗エイズ活性を示した。また本植物のエキスは抗腫瘍活性を示した [B. S. Min, M. Tomiyama, C. M. Ma, N. Nakamura, M. Hattori : *Chem. Pharm. Bull.*, 49, 546-550 (2001)]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : *D. filix-mas* 2a (For external use only), 2b (Not to be used during pregnancy), 2c (not to be used while nursing), 3 (Herbs for which significant data exist to recommend the following labeling: "To be used only under the supervision of an expert qualified in the appropriate use of this substance." Labeling must include proper use information: dosage, contraindications, potential adverse effects and drug interactions, and any other relevant information related to the safe use of this substance.) Canadian regulations do not allow male fern as a non-medicinal ingredient for oral use products.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

Commission E においてオシダは駆虫作用とともに強い細胞毒性を有し、経口摂取による中毒症状も報告されており、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる

名称 オノニス

他名等 英名 Spiny Restharrow root [Com E]

部位等 根・根茎 備考

学名(科名) *Ononis spinosa* L. (Leguminosae) マメ科 [Com E]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

煎じて服用するほか、粉末、浸剤、チンキ剤、シロップ剤などにして使用する。オノニス根の浸剤は強い利尿作用を示すが、連続して使用するとその効果は減退するので、2～3日服用した後は1週間ほど休止する。

毒性データー (LD50 等) RTECSに *Ononis* 属無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

地下部にトリテルペノイドのオノセリン、イソフラボン配糖体のオノン、プソイドオノン、オノニチン、エーテル化合物、精油、タンニンなどを含む。[牧野和漢薬草大図鑑]

オノン ononin、テクトリゲニン tectorigenin、トリフォリリジン trifolirhizin [Phytochemical Dictionary]

主要な生理活性

オノニス根にはサポニンを含むものと含まないものがあり、含むものに利尿作用が認められている。なお全草にも利尿効果があるとされている。オノニス根、葉、花は利尿、結石溶解剤に用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

テクトリゲニン tectorigenin に antifungal activity、トリフォリリジン trifolirhizin は inhibitor of seed germination [Phytochemical Dictionary]

重要文献

その他注意すべき点

オノニスを外用として傷口に使用すると治癒が遅くなるという。オノニスはあまり見栄えのしない植物であるが、垣根や花垣に植えられ、また花はサラダの添え物にされる。

同属植物 *O. arvensis* L. 近縁種であり *O. spinosa* L. と同様に使用される。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs p.213 (Side Effects: None known)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: B

Com E に記載されており、根は食経験がないことから、専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 オモト

他名等

部位等 根茎 備考

学名(科名) *Rohdea japonica* (Thunb.) Roth (Liliaceae) ユリ科 [牧野和漢薬草大図鑑]

生薬名、基原植物和名等 オモト [牧野和漢薬草大図鑑、赤松和漢薬] 生薬名：万年青 [全草、赤松和漢薬]

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

rhodexin A : LD₅₀ = 0.106 mg/kg, cat, i.v.

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

強心配糖体 rhodexin A [Dictionary of Plant Toxins; Nawa, H., *Yakugaku Zasshi* 72, 404 (1952); Masuda, T. *et al.*, *Biosci. Biotech. Biochem.* 67, 1401 (2003)]

rhodexin B and C [Nawa, H., *Yakugaku Zasshi* 72, 404 (1952)]

rhodein, rhodeatoxin [赤松和漢薬]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No,

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

rhodein はウサギ、ネコに対して呼吸運動を初め亢進のちに緩徐にする。またジギトキシン類似の心臓の収縮機能、発生機能、伝導機能を刺激し、迷走神経に作用して心臓の拍動振幅、周期を変化させ、循環障害を起こすことにより運動麻痺、全身痙攣を起こして死に至る。血管、血圧、血液分布に及ぼす作用もジギトキシン類似である。また内臓の平滑筋に対して筋収縮を起こさせ、神経系と随意筋には延髄の諸中枢を興奮させ、運動神経機能、骨格筋を麻痺する。この他局所刺激、催吐、蓄積作用がある。心臓に対する作用と蓄積作用はジギトキシンより強く、催吐作用は弱い。これらの中毒症状は悪心、嘔吐、頭痛、不整脈、血圧低下を起こし、全身痙攣を起こして死亡する。[牧野和漢薬草大図鑑]

rhodexin A: toxic to vertebrates [Phytochemical Dictionary]

重要文献

Dictionary of Plant Toxins

Nawa, H., *Yakugaku Zasshi* 72, 404 (1952)

Masuda, T. *et al.*, *Biosci. Biotech. Biochem.* 67, 1401 (2003)

その他注意すべき点

属名に混乱が見られる。*Rohdea japonica* とする資料も多い。rhodexin A の化合物名もこの属名に由来すると思われる。

根茎を乾燥させたものは万年青といい強心薬になるが、毒性が強く、家庭では絶対用いてはならない。[牧野和漢薬草大図鑑]

Botanical Safety Handbook 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：A

毒性の強い強心配糖体 rhodexin A を含む。

名称 オンジ

他名等 イトヒメハギ

部位等 根 備考

学名(科名) *Polygala tenuifolia* Willd. (Polygalaceae) ヒメハギ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 イトヒメハギ [局方] 生薬名 遠志 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 ComE

210 処方中の配合処方：4 (加味温胆湯、加味帰脾湯、帰脾湯、人参養栄湯)

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

根にオンジサポニン A-G、3-, 4-, 5-トリメトキシケイヒ酸、キサントン誘導体などを含む。日本産セネガ根の成分と類似することが明らかとなっている。[牧野和漢薬草大図鑑] 毒性データなし。

主要な生理活性

温浸液はハトの気道分泌を亢進し、エキ스는ラットに抗浮腫作用、利尿作用を示し、マウスの潰瘍形成を抑制することが報告されている。去痰薬、気管支炎、気管支喘息、強壮薬として各種処方に配合される。またオンジ末、オンジシロップの製造原料とする。[牧野和漢薬草大図鑑]

重要文献

その他注意すべき点

同属植物

Polygala fruticosa からはフルティノン A (frutinone A; antifungal activity against *Cladosporium cucumerinum*)、*P. polygama* からはポドフィロトキシン(podophyllotoxin (100 mg/kg, mouse, oral) ; antitumour, antimitotic, cathartic, and antiviral activities)、*P. macradenia*, *P. paena* からは 4'-デメチルデオキシポドフィロトキシン(4'-demethyl- deoxypodophyllotoxin; antimitotic, antileukaemic and antitumour activities)、*P. polygaena* からは 4'-デメチルポドフィロトキシン(4'-demethylpodophyllotoxin; antitumour, antimitotic and cathartic activities)、*P. senega* からはセネギン II (senegin II; expectorant activity)、 α -スピナステロール(α -spinasterol)が報告されている。 [Phytochemical Dictionary]

Botanical Safety Handbook Class: 2d – contraindicated in ulcers and gastritis.

The Complete German Commission E Monographs p.203

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方および漢方処方に記載されている重要生薬である。また、潰瘍と胃炎に禁忌があり、同属植物に劇物 podophyllotoxin の含有が知られている。

名称 カイソウ〈海葱〉属

他名等 英名 Squill

部位等 鱗茎 備考 カイソウ〈海草〉の全藻は非医

学名(科名) *Urginea* 属。主に *U. maritima* Baker (= *Scilla maritima* L.) (Liliaceae) ユリ科 [赤松和漢薬、牧野和漢薬草大図鑑]

生薬名、基原植物和名等 カイソウ [牧野和漢薬草大図鑑] 生薬名 海葱 [赤松和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等)

scillaren A: LD₅₀ intravenously in cats 0.143 mg/kg body-weight

scilliroside: LD₅₀ orally in male rats 0.7 mg/kg body-weight

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

U. maritima: 強心配糖体ブファジエノリド (scillaren A, scilliroside, proscillaridin, glucoscillaren A, scilliphaeoside, glucoscilliphaeoside, glucoscilliroside, scillarenin, scillosidin) [Dictionary of Plant Toxins; Kopp, B. et al., *Phytochemistry* 42, 513-522 (1996); Iizuka, M. et al., *Chem. Pharm. Bull.* 49, 282-286 (2001)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

新鮮な鱗茎は局所刺激作用があるが、乾燥するとその刺激作用は減少する。海葱は少量で去痰、利尿作用があるが大量服用すると延髄に直接作用して嘔吐、血圧亢進、拍動減少などを起こす。西洋民間では利尿、強心薬として心臓衰弱、浮腫、水腫などに用いられるほか、新鮮な鱗茎を殺鼠剤に用いられるが、日本ではほとんど使用されておらず、もっぱら観賞用として鉢物は花壇で栽培されるだけである。[牧野和漢薬草大図鑑 p639]

重要文献

Dictionary of Plant Toxins

Kopp, B. et al., *Phytochemistry* 42, 513-522 (1996)

Iizuka, M. et al., *Chem. Pharm. Bull.* 49, 282-286 (2001)

牧野和漢薬草大図鑑

その他注意すべき点

牧野和漢薬草大図鑑では *U. maritima* としているが、誤りである。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs p.214

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

scilliroside など有毒なブファジエノリド(強心配糖体)数種を含む。

名称 カイトウヒ

他名等

部位等 樹皮 備考

学名 (科名) *Erythrina variegata* L. var. *orientalis* (L.) Merr. (= *E. indica* lam.) (Leguminosae) マメ科 [赤松和漢薬]

生薬名、基原植物和名等 デイゴ [牧野和漢薬草大図鑑] (デイコ [赤松和漢薬、牧野和漢薬草大図鑑])

生薬名 海桐皮

医薬品として使用実態があるか Yes

ウチダ和漢薬で販売されている。

毒性データ (LD50 等)

erysopine: LD50 = 18 mg/kg (mouse, oral)

erythraline: LD50 = 80 mg/kg (mouse, oral)

erysodine: LD50 = 155 mg/kg (mouse, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

樹皮に以下の化合物が含まれる。

erysopine, erythraline, erysodine, erysotrine [Ghosal, S. *et al.*, *J. Pharm. Sci.* 61, 1274 (1972), Chawla, A.S. *et al.*, *Planta Medica* 54, 526-528 (1988)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

樹皮にはアルカロイドのエリトラリンが含まれるほか、有機酸、葉にはアルカロイドのレティキュリン、ノルオリエンタリン、dl-スクレリン、コレキシミン、エリビジンなどを含む。種子にはヒパホリンおよび有機酸を含む。

主要な生理活性

樹皮の水浸液は皮膚真菌に対して抑制作用があり、またこの属の植物はブドウ状球菌に対して抑制作用がある。樹皮は消炎、鎮痛薬として、下痢、リウマチによる痛み、歯痛、疥癬、腰膝痛や打撲による痛みなどの治療に用いられる。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑

Ghosal, S. *et al.*, *J. Pharm. Sci.* 61, 1274 (1972): erysopine, erythraline, erysodine, erysotrine の検出。

Chawla, A.S. *et al.*, *Planta Medica* 54, 526-528 (1988): erythraline, erysodine, erysotrine の検出。

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

erythraline など有毒なアルカロイドを含む。

名称 カガミグサ

他名等

部位等 根 備考

学名 (科名) *Ampelopsis japonica* Makino (Vitaceae) ブドウ科 [赤松和漢薬]

生薬名、基原植物和名等 カガミグサ [赤松和漢薬] 生薬名 白薺 [赤松和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes△

白薺としては一般用医薬品用途での使用実態がある。(例：牛黄清心元)

その他、白薺散 (聖濟総録：白薺、黄連、龍骨、赤石脂、烏賊、魚骨)、白薺散 (聖恵方：白薺、甘草、玄参、木香、赤芍薬、川大黄)、白薺散 (証治準繩：白薺、黄柏) などがある。

解熱、解毒、鎮痛に、白薺 1 回量 3~10g に 300ml の水を加え、1/3 量になるまで煎じ詰めたものを服用する。消炎には粉末にしたものを水で練り、幹部に貼布する。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

oleanolic acid glycosides, chondrillasterol 3β-D-glucopyranoside

(平成 17 年度の報告書も参考のこと)

主要な生理活性

白薺の水製エキスは試験管内で、数種の皮膚真菌に対して抑制作用がみられ、解熱、解毒、鎮痛、収斂、消炎などの作用を示す。白薺は収斂、解熱、鎮痛、解毒、消炎薬として各種のでき物、打撲傷、湯による火傷などに用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

重要文献

その他注意すべき点

生薬ビャクレンには複数の基原植物由来のものが存在する。具体的には、中国西北地方ではブドウ科の同属 *A. aconitifolia* Bunge の肥大根を、貴州、四川省ではガガイモ科 (Asclepiadaceae) の *Cynanchum auriculatum* Royle. や、コイケマ *C. wilfordi* Hemsl. の根を、また福建、広西省ではウリ科 (Cucurbitaceae) スズメウリ属の *Melothria heterophylla* (Lour.) Cogn. や *M. indica* Lour. の根をビャクレンまたは土ビャクレンと称し薬用とする。[和漢薬百科図鑑] また、城西大学の森田らは、国内に流通する生薬「白薺」とビャクレンは同一の生薬で、3 タイプに分類され、タイプ I は bryonolic acid と 24-ethylsterols を含むウリ科のもの、タイプ II は、momordin 類等を含むウリ科 *Momordica* 属のもの、タイプ III は、カガミグサ *A. japonica* であると報告している。[T. Kato *et al.*, *Natural Medicine*, 49, 478 (1995); T. Kato *et al.*, 生薬学雑誌 46, 302 (1992)]

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：E

わが国では医薬品としては使用実態が乏しく、毒性の強い成分の含有も知られていない。ただし、生薬白薇の基原植物は中国で混乱があるため、今回の判断はあくまで植物カガミグサのみに関するものである。

名称 カゴソウ

他名等 ウツボグサ

部位等 全草 備考

学名（科名） *Prunella vulgaris* Linné var. *lilacina* Nakai (Labiatae) シソ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ウツボグサ [局方] 生薬名 夏枯草 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

口内炎、扁桃炎には1回量3~5gに300mlの水を加え、半量になるまで煎じ詰め、かすを除いて随時うがいをする。またこの煎液を脱脂綿でこして洗顔すると結膜炎に効果がある。腎臓炎、膀胱炎には1日量8~10gに水300mlの水を加え、半量になるまで煎じ詰め、食間3回に分けて服用する。また茶剤として土瓶でさっと煮出してのんでもよい。[牧野和漢薬草大図鑑、花穂について]

毒性データ（LD50等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

トリテルペノイドのウルソール酸とその配糖体のプルネリン、樹脂、苦味質、タンニン、脂肪、アルカロイド様物質、硫酸カリウム、多量の塩化カリウムを含む。[牧野和漢薬草大図鑑]

主要な生理活性

弱い血圧降下作用、利尿促進作用、強い抗菌作用、腸管蠕動の増強作用、子宮収縮作用などのあることが知られている。利尿、消炎剤として腎臓炎、膀胱炎、口内炎、水腫、扁桃炎、淋疾、結膜炎などに用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

ウルソール酸には cytotoxic and antileukaemic activities [Phytochemical Dictionary]

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局方に収載されており、医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 カシ

他名等 ミロバラン

部位等 果実 備考

学名 (科名) *Terminalia chebula* Retz. (Combretaceae) シクンシ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 ミロバランノキ [牧野和漢薬草大図鑑] 生薬名 訶子 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

収斂、止瀉、止血、鎮咳に、訶子 1 日量 3~9g を煎じて服用する。

210 処方中の配合処方：1 (響声破笛湯)

その他、訶子飲 (濟生方：訶子、杏仁、通草)、訶子湯 (宣明論方：訶子、桔梗、甘草)、訶子皮散 (蘭室秘藏：御米穀、訶子、陳皮、乾姜) などがある。

毒性データ (LD50 等) LD50 = 175 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

果実にチェブリン酸、チェブラギン酸、没食子酸、エラグ酸、ルテオリン酸、センノサイド A、チェブリン、タンナーゼ、ポリフェノールオキシド、樹皮に β -シトステロール、没食子酸、カテコールなどを含む。[牧野和漢薬草大図鑑]

コリラギン corilagin、ペンタガロイル- β -D-グルコース pentagalloyl- β -D-glucose [Phytochemical Dictionary]

主要な生理活性

訶子の煎液は試験管内で数種の赤痢桿菌、緑膿桿菌、黄色ブドウ球菌、大腸桿菌、肺炎桿菌、変形桿菌、溶血性連鎖球菌にたいして成長抑制作用があり、チフス菌に対し強力な抑制作用がある。またタンニン質には収斂、止瀉などの作用があり、チェブリンは平滑筋にモルフィン様の鎮痙作用がある。訶子は収斂、止瀉、止血、鎮咳薬として咽喉結核、慢性咽喉炎、腸出血、痔漏出血、子宮出血、慢性子宮炎などに用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

また sennoside A が含有されており、緩下剤としても使用されることがある。[Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* 27, 145-147 (1965)., Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* 30, 233-234 (1968).]

Chebulinic acid inhibits adrenalin-induced lipolysis in fat cells of rats, but enhances adrenocorticotrophic hormone-induced lipolysis and inhibits induced lipid peroxidation in the microsomes of rat liver cells.

Chebulagic acid inhibits induced lipid peroxidation in the mitochondria of rat liver cells, but enhances adrenocorticotrophic hormone-induced lipolysis in fat cells of rat.

Corilagin: In vitro antihepatotoxic activity due to enzyme inhibitory action on glutamine-pyruvic transaminase, and also inhibitory action on induced lipolysis in rat liver microsomes. It inhibits adrenaline-induced lipolysis in fat cells of rats.

Pentagalloyl- β -D-glucose: Antiviral activity against human immunodeficiency virus. It inhibits induced peroxidation in rat liver mitochondria and microsomes.

[Phytochemical Dictionary]